祇園祭「鷹山」基本設計案

平成 30 年 6 月 21 日

公益財団法人祇園祭山鉾連合会

鷹山は休み山としての歴史は200年近くに及び、幕末の大火により木部及び装飾品のほとんどすべてを焼失、原資料の確認ができない状態であることから、復原のための調査は困難を極めた。絵画史料においても、近世中期以前のものは一定程度確認されるものの、肝心の19世紀前半頃、鷹山が巡行していた最後期の絵画は、横山華山筆「祇園祭礼図巻」(個人蔵)を除いてほとんどないということも残念なことであった。幸い文献史料は、他の山鉾に比して格段に豊富に残されていた。

したがって、文献を根拠史料としつつ、現在の祇園祭の曳山、また山鉾に使われる装飾品の形状から、祇園祭の曳山としての鷹山の特徴を描き出した。調査の結果、鷹山は曳山の鉾化を牽引した山であり、日覆屋根から前後屋根、そして大屋根と、その姿を変化させてきたことが明らかになった。その一方で、神話伝承や能楽などに取材することの多い祇園祭の山鉾の中ではすこぶる特異な「鷹狩」をテーマとした山であり、このことは応仁の乱以前より一貫して伝承されてきた。こうした点を鑑みて、鷹山復原の基本設計案は、大きく次の4点を指標とした。

①屋根は曳山としての最終形態である大屋根にする。
②御神体人形を見せる山とすることを中核におく。ゆえに大屋根を支えるための補助柱は排する。
③巡行最後期である、文化・文政期の姿に復原する。
④上記を踏まえつつ、安全性の確保を第一義に考える。

基本設計策定委員会の構成は、以下のとおりである。

委　　員	◎植木　行宣	元京都学園大学教授
	小嵜　善通	成安造形大学教授
	○岸本　吉博	公益財団法人祇園祭山鉾連合会理事長
	久保　智康	京都国立博物館名誉館員
	林　　駒夫	重要無形文化財保持者
	福井藤次郎	公益財団法人祇園祭山鉾連合会副理事長
	藤井　健三	西陣織会館顧問
	吉田　雅子	京都市立芸術大学教授
	特定非営利活動法人京町家再生研究会	

(◎は委員長、○は副委員長)

協　力　者　　中川　未子　　よろずでざいん　視覚伝達デザイナー

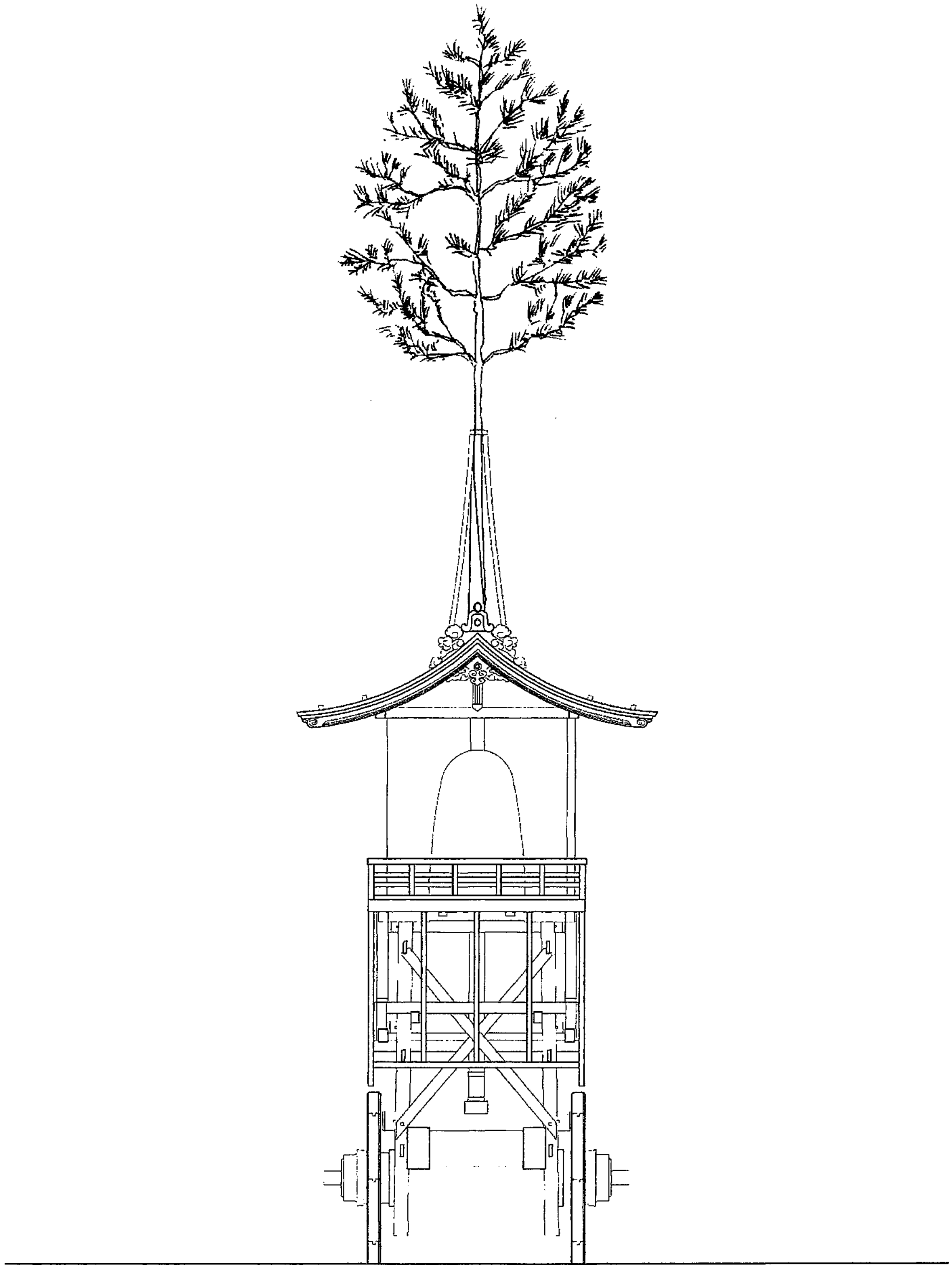
オブザーバー　公益財団法人鷹山保存会
京都府教育庁指導部文化財保護課
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

事　務　局　　公益財団法人祇園祭山鉾連合会

事務局支援　　京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
(村上忠喜〈平成30年3月まで〉、安井雅恵、福持昌之、山下絵美、
今中崇文〈平成30年4月から〉)
一般社団法人システム科学研究所

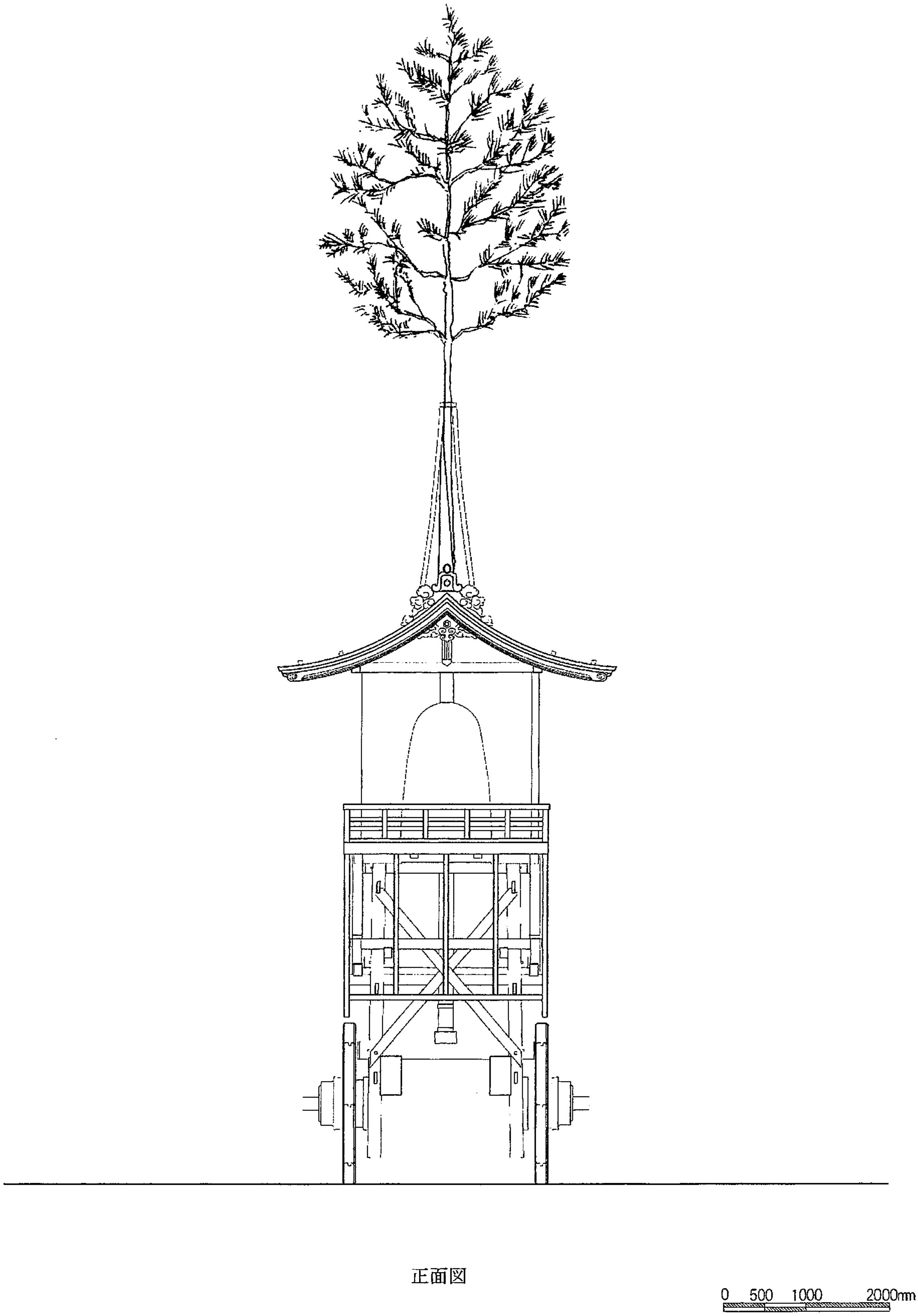
鷹山木部基本設計図

① 全景

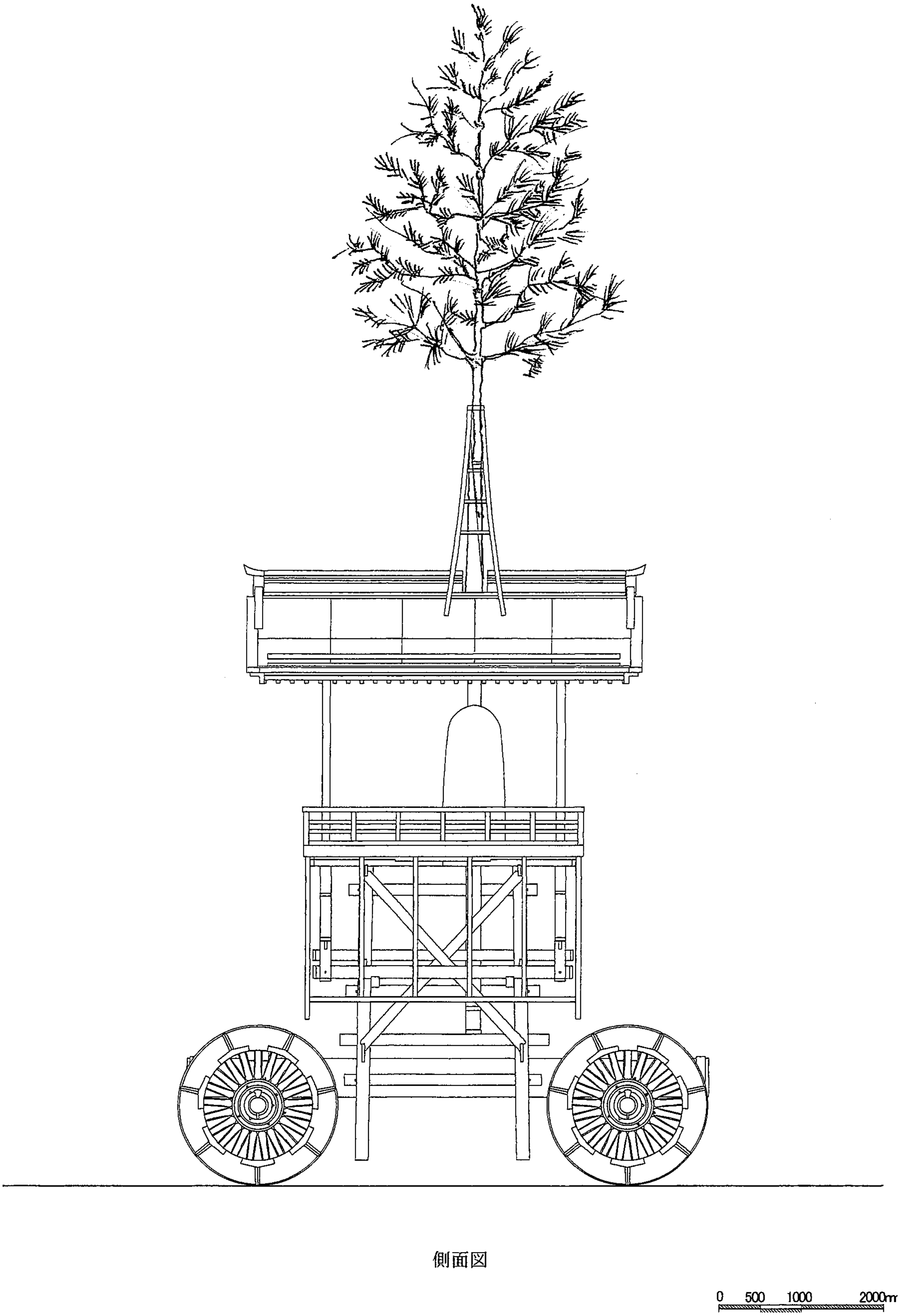


正面図

0 500 1000 2000mm

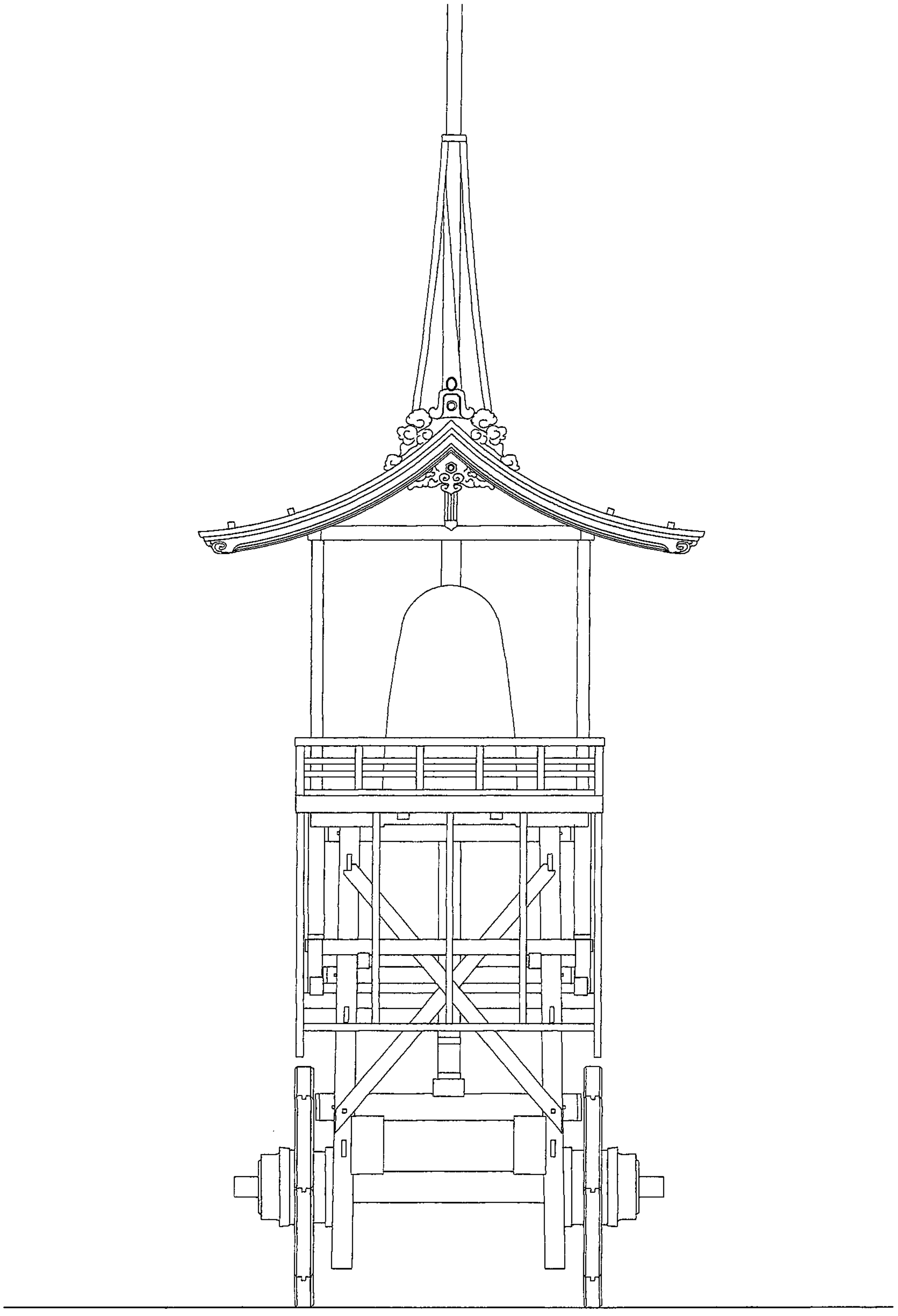


正面図



側面図

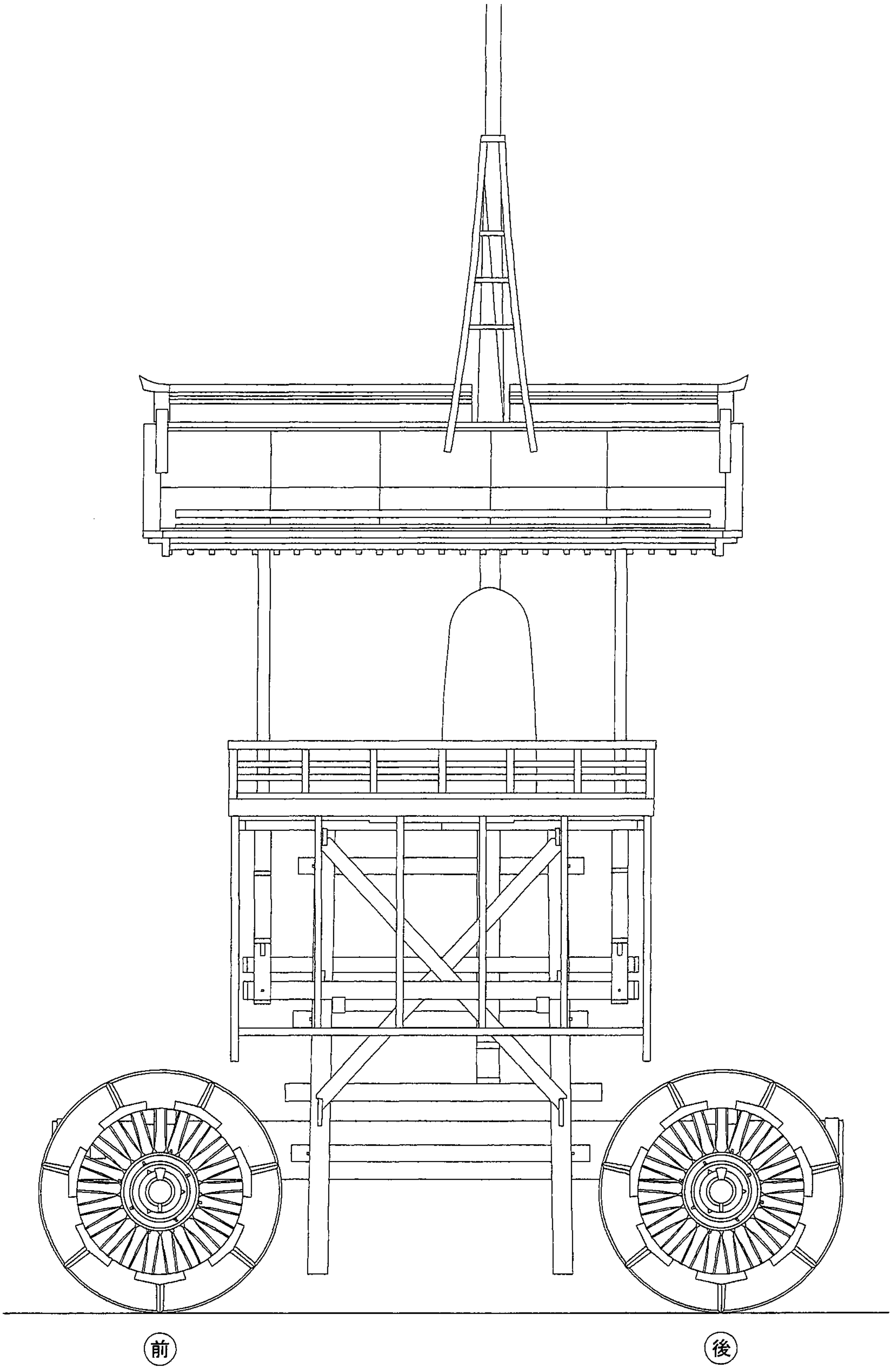
②　主要構造部



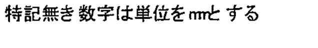
正面図

0　500　1000　2000㎜

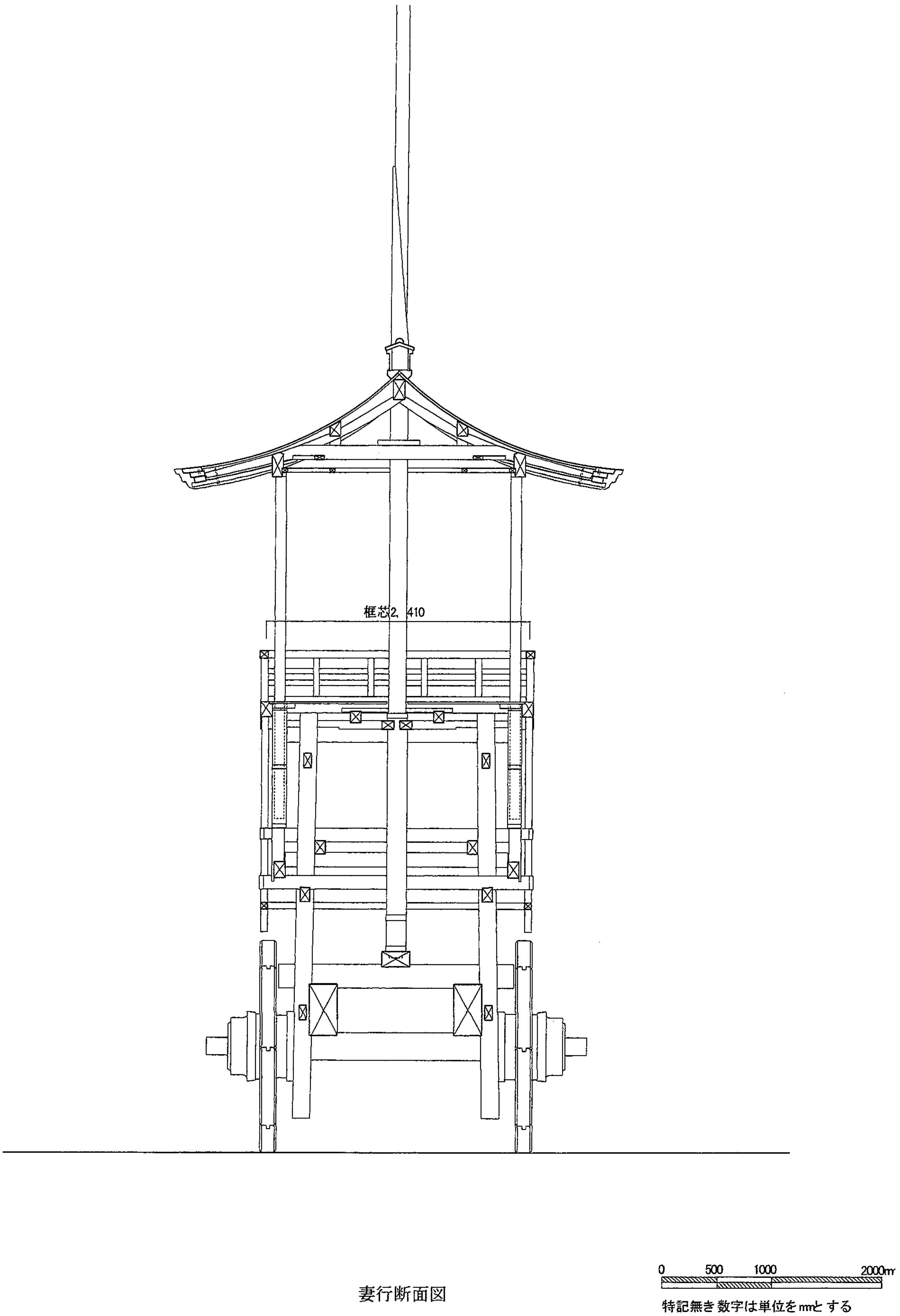
特記無き数字は単位を㎜とする



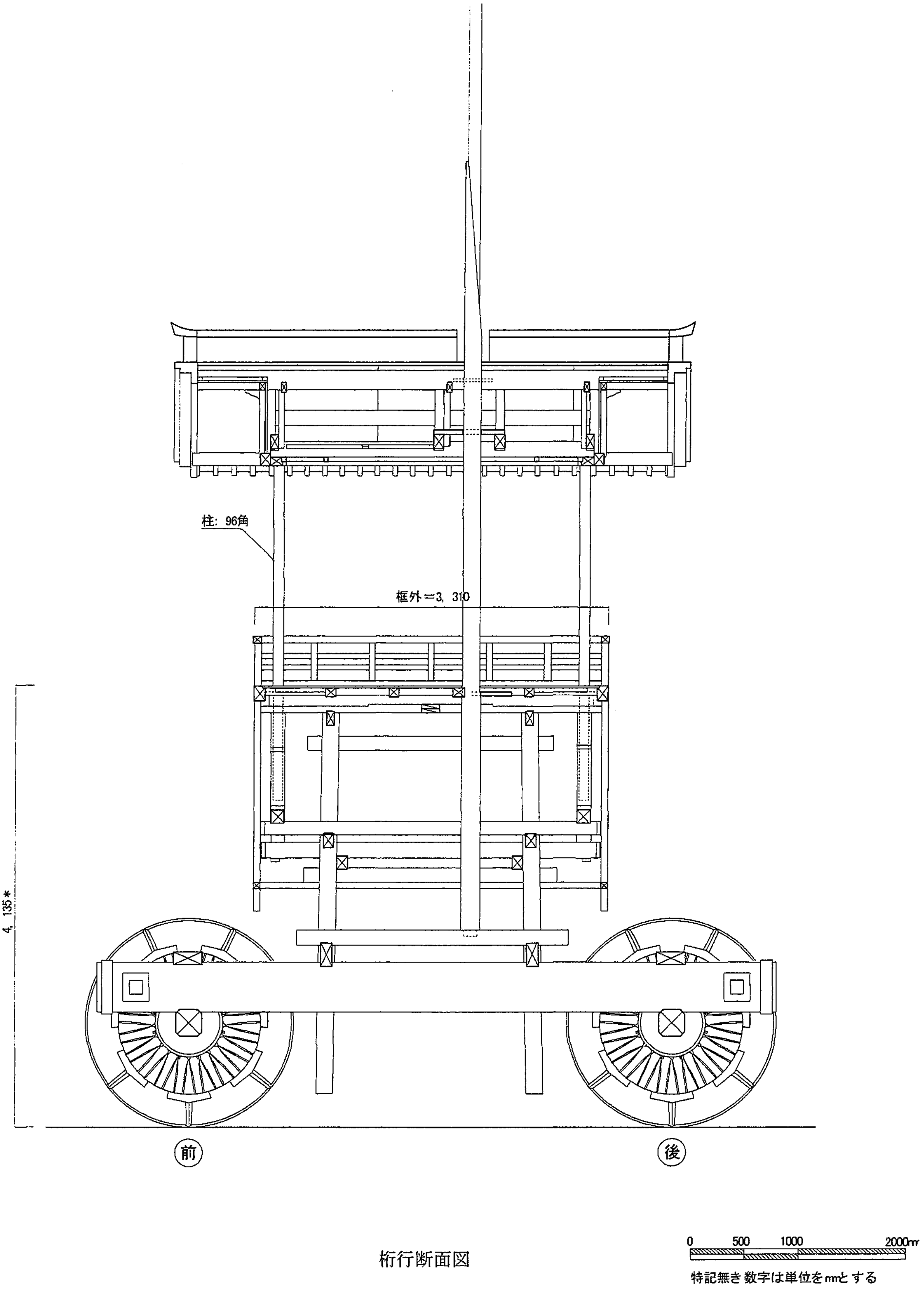
側面図



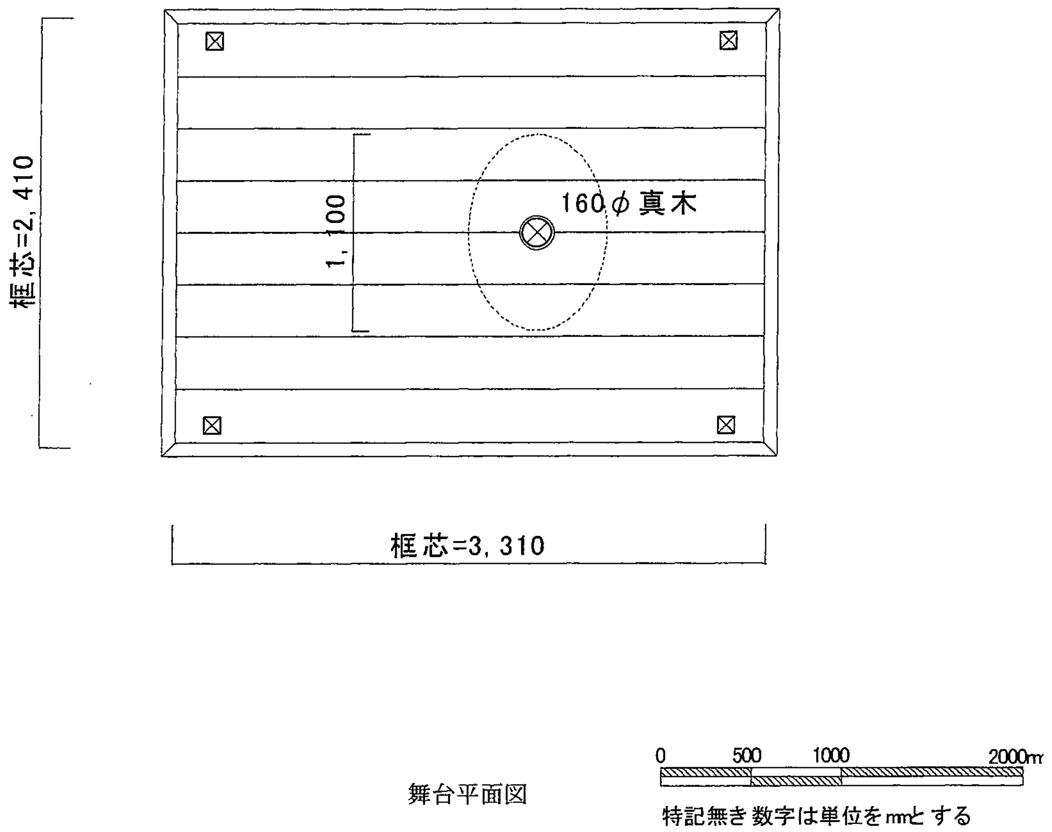
特記無き数字は単位をmmとする



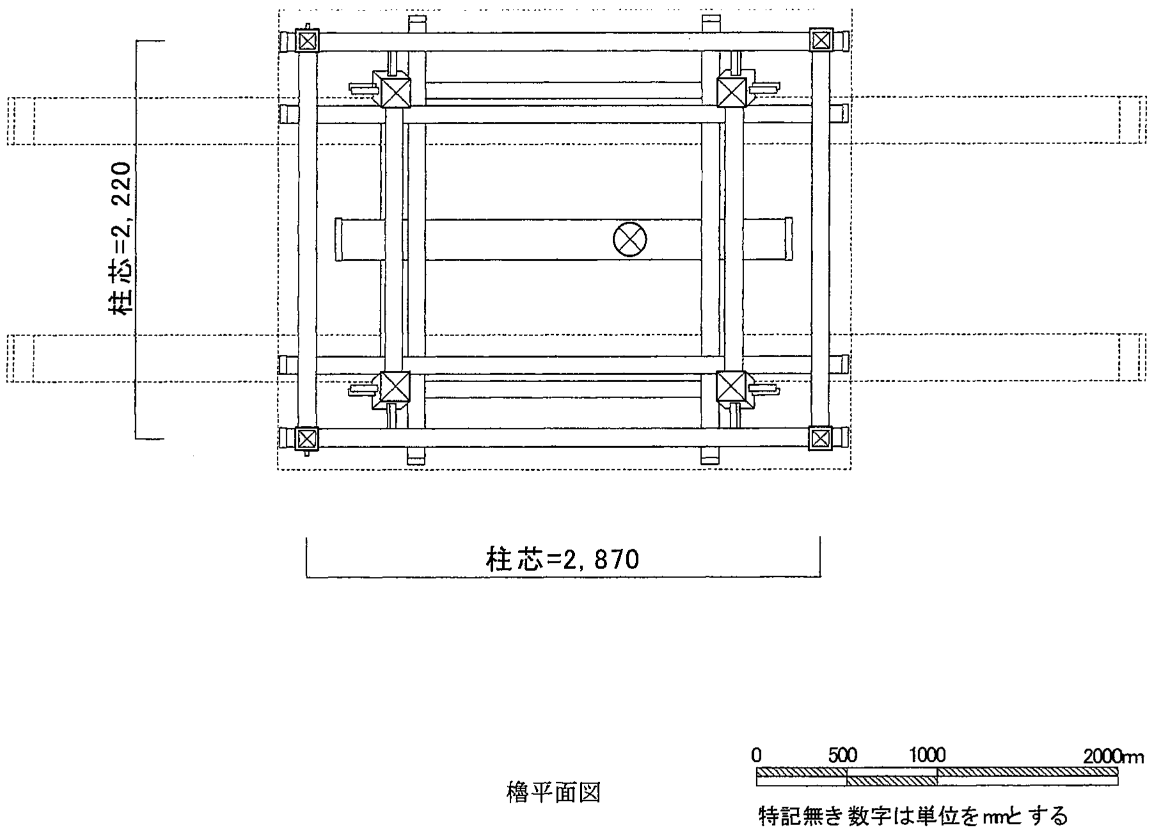
妻行断面図



桁行断面図



舞台平面図



櫓平面図

作図　特定非営利活動法人京町家再生研究会

御神体人形復原図

鷹遣

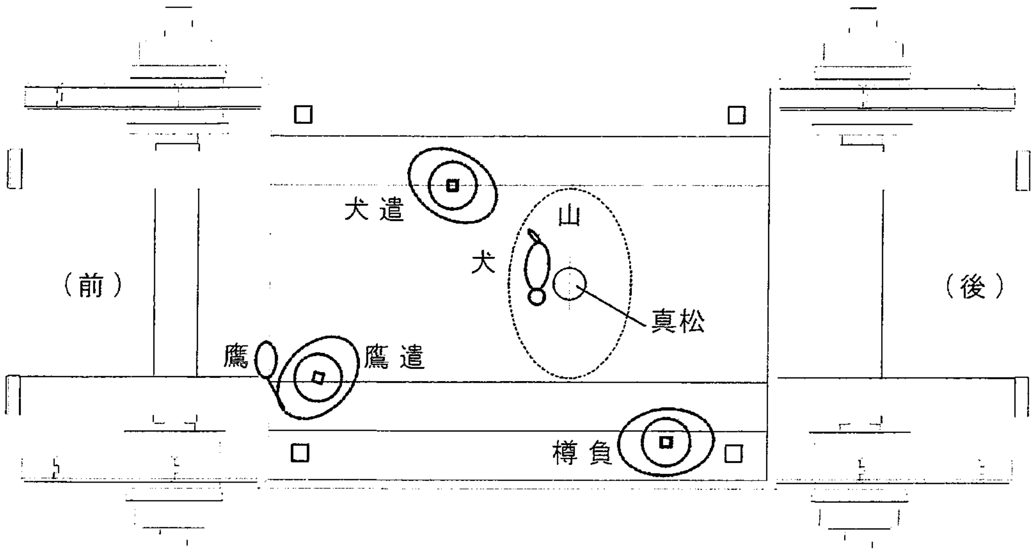
樽負

犬遣

犬

作図　中川未子（よろずでざいん）

舞台配置図



作図　特定非営利活動法人京町家再生研究会

※ 基本設計の詳細は、公益財団法人祇園祭山鉾連合会編『放鷹─祇園祭 鷹山 復興のための基本設計』を参照してください。
（公益財団法人祇園祭山鉾連合会ウェブサイト　http://www.gionmatsuri.or.jp/)

〔参考図面〕 往時の鷹山（復原図）

作図　中川未子（よろずでざいん）

初出：鷹山調査委員会編『祇園祭鷹山調査報告書』（祇園祭山鉾連合会、2018 年 3 月）